

第2回

ジェンダーは再生産されるか？



「ジェンダー」という概念が登場してから、女であること／男であることは、運命でもDNAが決めることでもなくなりました。構築主義のジェンダー論によれば、「女／男」とは、「生涯のあいだ女／男としてふるまいつづけた者」の代名詞です。そのあいだにゆらぎや転換があっても当然。「オレは男だから」「女つてのはさ」と言うたびに、ひとは「ジェンダーしている doing gender」ことになります。目からウロコのジェンダー論。

(講師からのメッセージ)

2018 6月30日 土曜日
13:30~15:00

愛知大学豊橋校舎 3号館320教室

※会場を変更しました。



講師 上野千鶴子氏

聴講無料 定員 150名

申込不要 当日先着順

交通アクセス

豊橋鉄道渥美線

「愛知大学前」下車すぐ

※ご来場の方は公共交通機関をご利用ください。



連絡先 愛知大学人文社会学研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

T E L : 0532-47-4167

E-Mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

U R L : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>

講師 上野 千鶴子(うえの ちづこ)氏

■ プロフィール

社会学者

東京大学名誉教授

認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長

1948年富山県生まれ。平安女学院短期大学助教授，シカゴ大学人類学部客員研究員，京都精華大学助教授等を経て，1993年東京大学文学部助教授（社会学）。1995年から2011年3月まで，東京大学大学院人文社会系研究科教授。2011年度から2016年度まで，立命館大学特別招聘教授。2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長（URL：http://wan.or.jp/）。

専門は女性学，ジェンダー研究。近年，高齢者の介護とケアの分野に研究領域を拡大している。

1994年『近代家族の成立と終焉』（岩波書店）でサントリー学芸賞受賞。

2011年度，「朝日賞」受賞。受賞理由「女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践」

■ 主要業績

『家父長制と資本制』（岩波書店，1990），『上野千鶴子が文学を社会学する』（朝日新聞社，2000），『差異の政治学』（岩波書店，2002），『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』（平凡社，2002），『結婚帝国女の岐（わか）れ道』（講談社・共著，2004），『生き延びるための思想』（岩波書店，2006），『男おひとりさま道』（法研，2009），『女ぎらい』（紀伊國屋書店，2010），『不惑のフェミニズム』（岩波現代新書，2011），『フェミニズムの時代を生きて』（岩波現代文庫・鼎談，2011），『ケアの社会学』（太田出版，2011），『女は後半からがおもしろい』（潮出版・共著，2011），『ナショナリズムとジェンダー 新版』（岩波現代文庫，2012），『快樂上等』（幻冬舎・共著，2012），『<おんな>の思想－私たちはあなたを忘れない』（集英社インターナショナル，2013），『女たちのサバイバル作戦』（文春新書，2013），『身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版，2013）『ニッポンが変わる，女が変わる』（中央公論新社，2013），『上野千鶴子の選憲論』（集英社新書，2014），『セクシュアリティをことばにする』（青土社・対談集，2015），『非婚ですが，それが何か!?!』（ビジネス社・対談集，2015），『時局発言！：読書の現場から』（WAVE 出版，2017），『世代の痛み 団塊ジュニアから団塊への質問状』（中公新書ラクレ・共編著，2017），など著書多数。

最新刊に『おひとりさま VS ひとりの哲学』（朝日新書・共編著，2018），『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（岩波書店，2018）がある。